

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1.早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	電気自動車等
b.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンスチール
c.	分類	低炭素水素等
	対象	合成燃料
d.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
e.	分類	GI基金支援技術を活用した製品
	対象	食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発

2.具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	電気自動車等
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	社用車の電動化を推進するため、電気自動車（EV）の導入を進めます。また、EVの導入に合わせて、事業所や作業所への充電インフラの拡充も検討し、EVの利用環境を整備します。

b.	グリーンスチール
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社が手掛ける建築プロジェクトにおいて、主要な構造資材である鉄骨等に、グリーンスチールを積極的に採用します。安定的かつ持続可能な調達体制を構築するとともに、自社施設での採用に加え、建築プロジェクトの発注者に対しても採用を働きかけていきます。

c.	合成燃料
対象行動	宣言対象製品の調達・購買

概要	建設現場で稼働する重機（油圧ショベル、クレーン等）や、資機材の運搬を担うトラック等で使用する軽油の代替燃料として、合成燃料の利用を進めます。安定的かつ持続可能な調達体制を構築するとともに、協力会社と連携して利用拡大に取り組めます。
----	---

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	コンクリートにおけるセメント使用量の削減や、CO2を固定・吸収する技術の活用により、CO2排出量の削減に資する環境配慮型コンクリート等の実用化・利用を進めます。積極的な利用に向けて、安定的かつ持続可能な調達体制を構築するとともに、自社施設での採用に加え、建築プロジェクトの発注者に対しても採用を働きかけていきます。

e.	食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	中高層建築物や非住宅建築物の木造・木質化に資する「等方性大断面部材」などの環境配慮型木質建材を積極的に採用します。安定的かつ持続可能な調達体制を構築するとともに、自社施設での採用に加え、建築プロジェクトの発注者に対しても採用を働きかけていきます。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	電気自動車等
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2019年度
目標削減率	46.2%

削減目標における選択対象の位置づけ	社用車への電気自動車等の導入および再生可能エネルギー由来の電力による充電は、Scope 1および2の温室効果ガス排出量を2030年度までに2019年度比で46.2%削減する目標の達成に寄与します。
-------------------	--

b.	グリーンスチール
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2019年度
目標削減率	27.5%
削減目標における選択対象の位置づけ	グリーンスチールの採用は、Scope 3のカテゴリ1における排出量の削減につながり、2030年度までにScope 3の温室効果ガス排出量を2019年度比で27.5%削減する目標の達成に直接寄与します。

c.	合成燃料
削減対象	Scope 1 + 2
目標年度	2030年度
基準年度	2019年度
目標削減率	46.2%
削減目標における選択対象の位置づけ	合成燃料の採用は、Scope 1の排出量の削減につながり、2030年度までにScope 1および2の温室効果ガス排出量を2019年度比で46.2%削減する目標の達成に寄与します。

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2019年度
目標削減率	27.5%
削減目標における選択対象の位置づけ	環境配慮型コンクリート等の採用は、Scope 3のカテゴリ1における排出量の削減につながり、2030年度までにScope 3の温室効果ガス排出量を2019年度比で27.5%削減する目標の達成に直接寄与します。

e.	食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発
削減対象	Scope 3
目標年度	2030年度
基準年度	2019年度
目標削減率	27.5%
削減目標における選択対象の位置づけ	「等方性大断面部材」などの環境配慮型木質建材の採用は、Scope 3のカテゴリ1における排出量の削減につながり、2030年度までにScope 3の温室効果ガス排出量を2019年度比で27.5%削減する目標の達成に直接寄与します。

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	電気自動車等
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

b.	グリーンスチール
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

c.	合成燃料
目標年度	
定量的目標	

選択対象に関する定量的目標の概要	
------------------	--

d.	CO2を用いたコンクリート等製造技術開発
目標年度	2030年度
定量的目標	200 m ³
選択対象に関する定量的目標の概要	セメントの一部を高炉スラグに置き換えることや、CO2を固定・吸収する技術の活用により、CO2排出量収支を改善し、またはマイナスとする環境配慮型コンクリート「CUCO」シリーズを、2030年度に200 m ³ 使用します。

e.	食料・農林水産業のCO2等削減・吸収技術の開発
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

（日付）2026年8月24日

（企業名）株式会社竹中工務店
（責任者名）経営企画室 サステナビリティ推進部長 野中康司